

第3回本別町総合計画推進委員会会議録

期 日 令和2年6月1日（月）

9:50~10:35

会 場 役場3階会議室

✓	✓		✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓
大和田副町長	佐々木教育長	一条院長	村本課長	篠原課長	大橋課長	飯山課長	久司課長	小坂主幹	坪課長	宮崎主幹	花房室長	倉崎局長	三品局長	前佛所長	藤野事務長	阿部次長	高橋課長	上原署長	高橋課長

1. 開 会

2. 挨拶 本別町総合計画推進委員会 委員長 大和田副町長

たいへんお疲れ様です。今日は第3回目になりますけれども、新しい総合計画について別冊で示されました。大まかな流れとしては、これを基に肉付けされていくと思われるので、よろしくご審議の程お願いします。

3. 経過報告

令和2年5月7日 第2回本別町総合計画推進委員会

4. 協議事項

大和田推進委員長：それでは（1）番の新しい総合計画について①から⑤まで説明願います。

（1）新しい総合計画の作成について 別添

① 計画書前段について

事務局：別添に基づき1ページから7ページまで計画構成を説明。7ページの本別町の状況説明において今後の財政状況の見通しも示すべきと審議会より意見をいただいていますので掲載していきたい。

② 基本構想（案）について

事務局：7ページの基本構想として、これまで審議会の中で話をしてきました10の案について掲載をしている。

③ 施策大綱（案）について

事務局：7ページの施策大綱についても、これまで審議会の中で話をしているものを案として掲載をしている。ここまで説明させていただいた計画書構成、基本構想、施策大綱については推進委員のみなさんのご意見をいただき、審議会でも協議をして再度お示しをさせていただきたい。

④ 施策体系（案）の現計画との比較について

事務局：8ページから13ページが施策の体系図。青い色の字が現計画の施策体系で、黒い字で表示してあるのが新しい計画の体系図（案）。施策の順番については現計画の順位で置き換えてつくっており、1番目の生涯学習について「社会教育活動の推進」の中に含めるかたちで案を作成している。現計画の3節に位置づけられている「社会教育活動・地域文化の振興」を新計画（案）では1番目の「社会教育活動の推進」に移動させるという意味で赤矢印を引いて表示。そして、主な取り組みとして4点を事務局作成案として記載している。

8ページでは「③スポーツ活動の推進」については「健康・スポーツの町宣言」から別だてとしていますが「社会教育活動の推進」に含めることも検討していきたい。9ページでは「④農林業の振興」としてはありますが、「林業の振興」を別にたてることも検討。

10ページでは「⑦地域福祉の推進」については主な取り組みの中にカッコ書きで書いてあるひとり親家庭支援や自治会活動もこの中で含める。ただし、要援護者の取り組みについては災害対策の項目で位置づけをする考え。

12ページ、「⑩住宅環境の充実」には移住施策も含めることで現在のところ考えている。「⑫行財政改革の推進」につきましては地方創生をここで含めることで考えているが、地方創生を別だてにすることも検討していきたい。戻りますが「⑭生活・衛生環境の充実」で墓地・火葬場関係も含めることで考えている。以上が施策体系についてです。47の施策を22にまとめることで案を作成した。

⑤ 前期計画施策（案）について

事務局：14ページから35ページまでが施策の内容。順番については現計画の順番を置き換える形で作成。

「10年後のめざす姿」「重点的な取り組み」「数値目標」「施策に関連する個別計画名」「施策を実施する部課局名」「現状と課題」「SDGs（エスディーゼーズ）」でどのように施策と関わっているのかを表示して作成している。いずれも私がたたき台として作成したもので、内容については、この後にご議論をいただいたものを加筆していったり、修正していきたいと思ってる。また、実施事業について重点的な取り組みの中に具体的な記載がないものもある。例えば先ほども話をした、墓地の管理、火葬場についての記載はない。それらについては実施計画の中で個別の実施事業として掲載をいただきたいが、各課の中で明示すべきということでありましたら追加をしていきたい。数値目標については、設定がなかなか難しいものもある。できるだけ数値化をしていきたいところではあるが、無理に数値化をせずに目標表現でやむを得ないものも出てくるかもしれない。また、現在は数値目標を各施策で1つにしているが、もう一つ追加すべきという意見がありましたら複数の数値目標を設定していくことも考えていく。

次に個別計画についてですが、この順番も私の方で並べたものであって、計画の上位性があるもの等あれば、順番を入れ替えていくべきと考えている。また、こちらで把握していない計画があれば報告をいただき、追加していく。18ページの商工業で消し線になっているのは過去の計画で現在は存在しない計画を表しているので、誤りがあれば訂正する。

現状と課題についても事務局でたたき台として作成したものであって意見をいただき修正していく。

もう一つ、事務事業実施計画調書という横書きのものを添付している。これま

でも作成いただいています、様式を変えていきたいと考えている。変わるところでは施策番号。新しい総合計画の体系が変わりますと施策番号等も変わることになる。しかし、事務事業名についてはこれまでのものと変わりませんので、一つひとつ記載いただきたい。

また、中段にある数値目標設定内容という欄が新たに加わる。こちらはそれぞれの事業で数値目標が設定できるものについては設定をいただき、各年度ごとに目標値と実績値を記載し、評価基準にしていきたい。この評価調書（案）は総括も使用できるように数値目標から下の項目で評価を行なっていただき、次年度以降に生かしていくことにする。この作業は毎年3回お願いしていたが、この調書により年2回、5月と12月に作成をお願いして、これを活用しながら計画時点で予算付け、総括は行政改革の資料としながら、3年間をローリングする実施計画として使用する。2枚目、3枚目につきましては記載例。

大和田推進委員長：事務局から説明がありました。総合計画の原々案が作成され、第7次の計画としてはこのように進めていきたいということでありますけれど、6次計画と比較して事業の振り分け変更があると思います。まず、この原々案に対する全体的な意見を皆さんからご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。ここで見て直ぐに意見というのも難しいと思うので「こういう形で進めたい」と、一度、持ち帰ってもらって、しっかりと読んでいただいて、それから意見をいただくということになると思いますが、今時点で気が付いたことがあれば意見をいただきたいと思います。

委員：前回の計画は生涯学習という理念を第1章に持って来ていて、今回はそこが理念とならないということについては特に事務局の判断であるので良いけれども、社会教育と生涯学習の領域が、どこからどこまでということと、第1章に生涯学習によるまちづくりを持って来たから教育が第1章となっていて、事務局から施策の順番は決まっていなかったということであったが、このままで行けば初めは教育から入っていく訳であって。計画というのは私個人的には順番はないのかもしれない、みんなが大切だから順番はないのかもしれないけれども10年間のまちづくりをしていく方向の計画の第1章は、1丁目1番地というのは、今までは生涯学習のまちづくりをしていくから第1章に位置づけられた。だから、10年間、何をまちづくりに掲げてやっていくかということを持ってくるのが良いかと思う。全体の市民が賢くなって賢くなった市民がまちづくりをしていくために1章に来たし、それが生涯学習によるまちづくりだということが理解された。最近では生涯学習の風があまり吹いていないので若い人にとっては分からないかもしれないけれど。そのような整理を企画振興課がしたのであれば良いが、社会教育と生涯学習の違いだとか、賢くなった市民がまちづくりを担っていくということ、1丁目1番地が1番初めにくるとは限らないけれども、その辺りの考え方は整理をして実施していくべき。

高橋事務局長：委員のご心配のとおり、この間の本別町の総合計画、町長もこれまで「まちづくりは人づくり」と言ってきた。それは第5次、第6次と続けてきた。私は教育が人づくりの原点と思っている。ただ、委員が心配する生涯学習の取り扱い、表現の仕方、際立たせ方、主管のありかたについては課題があるところ。そういった部分は補足をいただきながら形づくっていきたい。

大和田推進委員長：町政執行方針の一番初めに出てくるのは教育。教育の目標があって、その後に細部の説明をしていく。そのあたりとも整合性をとってほしい。確かに委員が言うようにどこにポイントを持って、計画をつくっていくということはこれから皆さんと協議をしていかなければならない。他に皆さんから何かありますか。

今日初めて示されましたので読んでいただいて、構想を描いていただいて、6次の総合計画も参考にしながら、第7次計画については、これまでと変わった方法で進めていくことになるので、各担当から肉付けをしてもらう。他に評価を行なっていくための数値目標が入ってきているので、これは表現、設定がなかなか難しいと思う。この数値目標は何に基づいて、どういう考えで設定したのかも説明をする必要もある。その設定の基礎も押さえてほしい。この数値目標の設定は審議会での意見。

高橋事務局長：審議会ではこれまでの総合計画総括について概ね評価をいただいているところで、目標として何か掲げた方が評価しやすいとの意見。それがひとつの道しるべとなると。ただ、全ての分野で数値をたてるのは難しいことも理解をいただいているし、事務局としてもそう感じている。予防接種の受診率、または講習の受講率、商業売上げ額、農業生産額などは提示しやすいけれども、抽象的なものもあり、何をもって成果とするかということでは難しいと思っているので、原課のみなさんよりアドバイスをいただかないと、事務局だけでは厳しい。

大和田推進委員長：各教室だとか事業とかイベントを実施して、この事業に対して出席率が何パーセントとなったときに、これで目標を達成できているのか。主催者としては定数30に対して、定数まで参加者を得たい。そういう意味でも設定は難しい。

高橋事務局長：先程も話が出た、人づくり。人づくりとは何をもって人づくりと言うのか。その目標数値達成となると難しい。

大和田推進委員長：社会教育にしても生涯教育についてもポリシーがあり、自分の考えとか、自分をどこまで高めていこうとするのか、そこまでの様々なプロセスがあって、どこまで理想にポイントを近づけていくかが、難しいこと。それは行政ばかりでなく町民にとっても同じこと。

委員：それらを束ねたものがまちづくりに生かされればベスト。自分のことを高める事に対しては責任は付かない。学んだ成果をまちづくりに生かすために税金が使われているのであれば別。趣味は自分でやれば良い。

大和田推進委員長：町民みんながまちづくりのために学んだことを生かすことができれば良い。でも個人個人だから「私は個人で、自分だけ満足すれば良い」人もいる。

委員：それは行政に言われてやることでは無い。

大和田推進委員長：これまで学んだ経験や知識を次に行政やまちづくりに生かしていくとなればプラスになる。

高橋町長（オブザーバー）：以前はコンサルタントに依頼して総合計画書を作成していた。ある議員から立派な作文ではあるがどこに出すのかとの質問があった。総合計画作成をまちづくりにつなげなくてはダメだと。行政が主導していくのでは無くて、いちから町民の皆さんの力で作ってきたのが5次計画からの歴史。町民自ら作ってきて、そこで生まれてきたのが、まちづくり、人づくりであった。そのために大切なことは生涯学習で、ひとり一人の学びを高めていくこと。そして、まちづくりへの視点を高め、例えば農林課、企画振興課だけの縦割りでは無くて、いかに横とのつながりをもって、まちづくりを、点から線に、線から面にもっていくかということが大事な視点。農業であればここに書いてある通り、後継者や農地プランなど色々あるけれども、つきつめれば基盤整備、土づくりだ。そして安全・安心の食料を生産することによって、消費者も生産者も喜びをもって、さらに加工が入れば若い世代の人も加わってきて定着もする。総合的にトータルにまちづくりを進めて行くと、そのためには健康も大事、医療も大事、そして、安心安全のために災害や救急消防も大事、そうして全体的につながっていく。それが本質的には町民の暮

らしを安全・安心に、明るく元気にまちづくりをして行くということが、この総合計画のつくり。それには一定の数値目標も必要。その目標に向かってどう頑張っていくか。それがこの総合計画の基本のつくりとなっていく。ぜひ、このことを今回の中で、たくさんの町民アンケートでも意見も出ている。審議委員さんからもたくさんのアイデアや課題もいただいている。それらを事務局で把握して整理してもらっている。それらを上手くつなげながら希望の持てる計画にしていって欲しい。後は原課のみなさんが出された案や意見にどのように横櫛を入れて、各課の連携をとってまちづくりに生かすかという段階まで進んで来ているので、作文が出来て良かったでは意味がない。みんながその目標に向かって参画できるキャッチフレーズのように、意識を高めながらまちづくりをしていってほしい。

大和田推進委員長：町長から方向性、基本的なことについて説明があった。各課で計画の展開をしていくための計画づくりを行ってほしい。先ずはこの原々案を見ていただいて肉付けしていただきたい。

高橋事務局長：それほど時間を空けずにまた推進委員会を開催してご意見をいただきたい。

大和田推進委員長：それから第2段目の事務事業実施計画書ですが、これまでと比べて大分変わった。以前は3ページあった。

事務局：昨年より総括表を2枚の様式にした。原課の業務も軽減していきたい考えで事業総括により次の事業展開を求めたい。

大和田推進委員長：今後のシートは事業目標、進捗率を記入いただくこととなる。この分析、把握を一番できるのは事業を担当しているみなさんですので、率直なところを記載いただきたい。さらには事業成果と今後の動向とある。初期の目的を達成したものについては廃止をしていただく。また、さらに拡大すべきものも。町民の皆さんと共有することが出来たかの点検もしてほしい。皆さんからこの計画書の作成全体についてご意見があれば。

委員：この総合計画と地方創生の計画はリンクしているのか。また、SDGsの理解をしっかりとしなければ、色がカラフルできれいで終わってしまう。どこまで皆さんが高まりを見せていくのか。職員の間でも勉強が必要。

大和田推進委員長：これを取り上げた理由は。

事務局：日本ではようやくここ数年取り上げられてきて、企業では着目されている。世界規模な視点で、グローバルな視点で自己評価が出来て、地球環境や世界に貢献することができる。日本にあっては関係ない部分が多い、恵まれていると思いがちではあるが、格差の拡大など進んでいる。私は総合計画を作成しながらこのSDGsを見ていくと理解できるところも出てきている。例えば14ページの社会教育活動の推進では「4 質の高い教育をみんなに」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナリシップで目標を達成しよう」という3つがこの施策に合致していることを表していますが、なぜこのゴールと結びつくのかを示して、理解をいただくようにしたい。

委員：トレンドなのだけれども理解したなかでやりこむことを意識してまちづくりをやっていくとなるのか。やっていかなければいけないのだろうけれど。

事務局：この計画に記載したことをきっかけにして、広め進めていきたい。

委員：子どもの貧困について、アンケートを実施したときに、なかなか表には出て来ない。子ども食堂もなかなか実施に至れない。

大和田推進委員長：これは総合計画の後ろ盾として持続可能な社会実現、世界的な取り組みがバックボーンになって作成したとなるかもしれないが、審議会委員の意見

も聞いていくべき。

高橋事務局長：せっかくやるのでこういった考え方や取り組みを一緒に進めていければと考える。ただ、掲載しているだけで職員も理解していないのであれば意味が無い。この施策がSDGsのこの目標とこういう観点で一致していると説明できるようにならなくてはならない。

委員：2030年を最終目標として17のゴールが掲げられているもの。

大和田推進委員長：この17の目標が本別町の総合計画とどのようにリンクしているのかを解説できるように職員みんながしなければならない。他に何か気が付いたことがありましたら。

委員：遅れてきての参加で説明を聞いていないのですが、施策の⑳行財政改革の推進で数値目標の考え方について、信頼できる人の割合を高めるとあるが、行財政改革と信頼できると思う人の割合とが結び付かない。

事務局：はじめは財政力指数で考えた。ここに提示したのは予算の適正な執行がされていることが、信頼できると思う人の割合につながると考えた。

大和田推進委員長：そのあたりについても、各課で話し合ってもらって意見をいただきたい。これはたたき台としていただきたい。

高橋事務局長：25ページを見ていただきたい。医療体制の充実でも数値目標で外来患者を増加させますとなっているが、病気の人を増やすような感じにもとれる。そういう見方、考え方もあるので、右から見たり左から見たりして、アドバイスをいただきたい。

委員：地方創生とは数値目標を全て一致させているのか。同じ計画期間にするのだから同じ数値にしなければならないのでは。

事務局：地方創生の数値目標はもう少し、細分化された具体の目標設定になっているものが多い。

高橋事務局長：例えば商工事業所数を何件から減らさないようにするとか。公園の入込者数とか合わせることもできるものもあるが。

委員：同じ課で作成しているのでリンクするのでは。

事務局：内容的には同じ方向を向いている。

大和田推進委員長：今の意見も参考にして検討する。他に皆さんから気が付いたことがありましたら。

委員：今後、個別に課と事務局と協議して良いか。

大和田推進委員長：この後、事務局よりスケジュールを示す。

(2) その他

大和田推進委員長：それでは事務局からスケジュールを。

事務局：本日、いただいた意見とこの後に各課の職員宛てに素案について、ご意見をいただきたいと思う。推進委員会につきましては、それらの意見を取りまとめる作業が終わった後に、ご意見をいただくように設定したい。あまり時間を経過させずに開催したい。意見をいただいたものを再修正して、策定審議会、推進委員会と並行的に実施していきたい。具体的な日程、お願いについてはメールで連絡したい。よろしく願いいたします。

大和田推進委員長：よろしいですか。後日、スケジュールと今後の対応について連絡するということです。全体を通してありませんか。それでは推進委員会を終了します。10年間のまちづくり計画について皆さんの協力を得たいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは終わります。ありがとうございました。